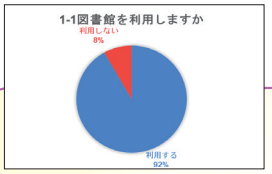
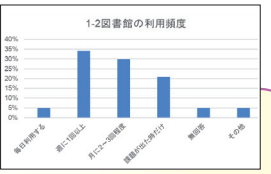
就実大学・就実短期大学図書館報

共翔

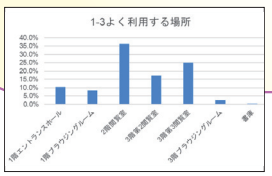
第30号



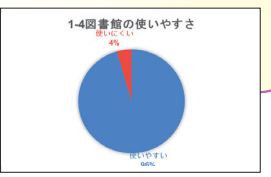


●…… 目 次 ……●

【巻頭言】「進化論から仏教的「空」まで」苅米一志……2
【研究ノート】「本でつながる世界」小林佐知子……4
【図書館活動報告】……6
【学生協働】・図書館サポーター活動報告……8
・卒業する図書館サポーターからのエール……10
・図書館サポーターからの海外だより……12
・Webブックハンティング報告……13
【ブックガイド】……14
【ユーザーズガイド】・「情報を調べる」を活用しよう！……16
【図書館セミナー実施報告】……19
【図書館アンケート結果報告・利用者へのメッセージ】……20



2022年2月実施のアンケート結果をグラフにしました。
詳細は館内に掲示しています。



巻頭言

進化論から仏教的「空」まで ― 書物の一撃

就実大学・就実短期大学 副学長
人文科学部 総合歴史学科 教授
苅米一志

人間それほど単純ではないと思うのだが、「あなたの人生に最も大きな影響を与えた書物は何ですか」という問いは、少し以前ならよく聞くものだった。現今では、これも個人情報に属するものとして、「聞いてはいけないこと」なのかも知れない。

無論のこと、一冊や二冊の書物で人生が決まるということもないし、仮に本人がそう思っていたとしても、まわりから見れば「どう考えても、そう思えない」こともあるだろう。だから、以下に述べることは、極めて主観的な事柄としてお受け取り頂きたい。

もし、そのような書物を挙げろ、と言われれば、筆者は迷わず以下の三冊を挙げる。

①カール・セーガン、アン・ドルーヤン（柏原精一・三浦賢一訳）『はるかな記憶―人間に刻まれた進化の歩み（上･下）』（朝日文庫、1997年）

②戸田正直『感情―人を動かしている適応プログラム（認知科学選書24）』（東京大学出版会、1992年）

③ウィリアム・パウンドストーン（松浦俊輔訳）『囚人のジレンマ―フォン・ノイマンとゲームの理論』（青土社、1995年）

実は、今まで上記の書物を他人に明かしたことはないのだが、仮に明かしたとして、怪訝な顔をされることは容易に想像がつく。筆者の専門が、歴史学（日本中世史）だからである。そして、これには少し込み入った事情がある。

子どもの頃から、世の中の「規則」というものに大きな疑問を抱いてきた。いまだにうっかりすると「規則」を踏み倒したい衝動に駆られるが、一方でそれは、誰の心にもあるものではないかと疑っている。特に日本社会においては、無駄で不合理な「規則」が多すぎるのである。「法は倫理の最低限」とはよく聞く話だが、そもそも日本では「倫理が法を上回る」ことが多すぎないか。・・・そうした疑問や怒りを二十代まで引きずっていたのだが、上記の書物は、それに別なかたちで回答を与えてくれるも

のだった。

①は②と組み合わせることによって、より腑に落ちやすいものになる。人間を霊長類などとは言うが、それもまた進化の延長上にあり、「少しお利口な、しかし出来の悪い機械」ぐらいの存在でしかないことがよく分かる。

これに関わって、「感情」の問題は興味深い。それは、一般に不合理なものとして抑制の対象となるが・・・「規則」に対する筆者の怒りもそのようなものかも知れない・・・それが不合理であるとすれば、とうの昔に進化の過程で淘汰されてきたはずである。では、なぜそれが人間の脳に「作りつけ」、すなわち本能として備わっているか。

人間の脳は、6万年このかた変わっていない。「感情」が現在「不合理」なものとされるのは、かつて人類史上において大きな変化が起こったからである。その変化を考えると、「文明環境の成立」ということに落ち着く。それ以前、人類は感情と経験に則って行動していれば、「合理的」だった。しかし、文明環境はそれを許さない。

例えば、火災にあった場合を考えてみよう。脳には「恐怖」という感情が生まれ、それにしたがって人間は逃避行動にうつる。ところが、高層ビルの内部であればどうであろうか。一つしかない出口に人々が殺到し、そのことによって火災そのものによるよりも、はるかに多くの死傷者が出るかも知れない。野生環境であれば、即座に逃げることが合理的であるはずなのに、文明環境において、それは「パニック行動」すなわち不合理な行動に分類されてしまうのである。このこと自体、逆説的に「不合理」ではないか。・・・どうやら、このあたりに筆者の疑問や怒りの根があるように思える。

そして、③はそうした感情の運用という問題に示唆を与える。例えば、「怒り」は個々人の権利を守り、他者の侵害を排除するための動機づけとして重要である。しかし、「怒り続ける」ことは生存戦略として最適ではない。「一度は怒りによって罰するが、相手が行動を改めれば許す」。単純な生物においても、これが「最大多数の最大幸福」をもたらす最適解となる。・・・ここに至って、筆者の憑きものは落ちたのである。

人間をつき動かしているのは、極めて単純な原理に他ならない。そう考えた時、筆者は文明環境の空虚さを認識することができた。それとともに、「真に納得はできないが、不完全な人間の作る、この文明環境に付き合ってやっても良いのではないか」という心のゆとりが生まれた。「表面上、規則は守りますけどね・・・」という程度の心構えはできたということである。「般若心経」には「苦しみは存在せず、そして苦しみが消えることもない」という矛盾したようなことばがある。それが「空」ということなのだが、上記の書物という「別な入り口」を通って、筆者にはその意味が少し理解できたような気がした。・・・齢を重ねたとはいえ、「規則」の息苦しさから脱することのできない未熟者ではあるのだが。

本でつながる世界

教育学部初等教育学科　准教授　小林　佐知子

本でつながる想像の世界

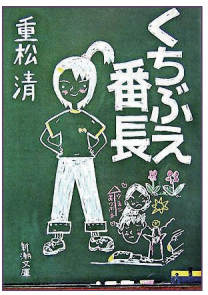
近年、「子供の読書離れ」が進んでいるという。果たして、本当にそうだろうか。

私は小学校教員の経験をもつ。週１回の図書の時間は、どの学年の子供も楽しみにしていた。低学年では最後の５分間は読み聞かせと決めていて、子供たちは図書室に併設された絨毯の場に我先にと集まってきた。仲良しの友達とくっついて（教室の席は離れているからうれしそう！）、寝転んで（リラックスし過ぎ？）、話が進むにつれ近づいてきて（みんなが見えなくなるよ～）･･･と、本から想像する世界に浸っていた。

高学年になるにつれ、子供たちは興味に応じた読み応えのある本を選ぶようになった。たとえば、根強い人気の「こまったさん」や「かいけつゾロリ」のシリーズを制覇する子供、歴史ものや推理ものにはまる子供などなど。次第に、子供同士で「この本おもしろかったよ！」、「次、貸して！」というやり取りがみられるようになった。

このように、私には「子供の読書離れ」が進んだ実感はない。ただ、今の子供は大変そうと感じることは多い。習い事などで時間に追われ、YouTubeなどから情報があふれ出ている環境で、ゆったりと落ち着いて読書ができるだろうか。けれど環境さえ整えば、子供たちは子供らしい想像の世界でつながることができるし、本はこうしたつながりを生み出すものだと思う。

本でつながる世界の広がり



私のお気に入りの一冊は、重松清さんの『くちぶえ番長』である。重松さんはフリーライターとして様々な現場の取材を経験したからか、文章が素朴でありのままが伝わる。この物語は、小学４年生のツヨシのクラスにマコトが転校したことから始まる。自己紹介で

「この学校の番長になる！」と宣言し反発を受けるのだが、強いだけでなく優しく友達思いで、頼りになるマコトを子供たちは受け入れていく。実は、マコトは幼い頃に父を亡くし、忙しい母に代わり病気の祖母の世話に追われて、好きなことができないもどかしさを抱えていた。そんなマコトは、辛いときや悲しいときに口笛を吹く。口笛を吹くと涙が止まると父に教わった記憶を頼りに。

あるとき、先輩の先生から「あの本よかったわ～ありがとう！」と言われた。かつて、この本を学校が発刊する冊子で紹介していたのだ。聞くと、その先生のクラスに転校生がきたのだが、馴染めない様子だったという。そこでこの本を勧めると、読後、様子が変わりクラスに馴染んでいったそうだ。「本当にそんなことが！」と驚いたが、本は人と人―直接関わらないとしても―の想像の世界をつないで、広げていくのかもしれない。

本でつながる世界の実現

私の大切な一冊は、日野原重明さんの『十歳のきみへ―九十五歳のわたしから』である。この本に出逢ったのは、私が若手教員としてがむしゃらに過ごしていた時期だった。

日野原さんは、「成人病」を「生活習慣病」に改称したことで有名な医師で、全国の小学校で「いのちの授業」をされていた。この本で日野原さんは、まるで目の前に子供がいるように、「生まれてきたことは、それだけですばらしいことです」、「からっぽのうつわのなかに、いのちを注ぐこと。それが、生きるということです」と語りかけている。子供を「できるようにしなきゃ！」「わかるようにしなきゃ！」と躍起になっていた私は、子供の存在を丸ごと受け止めること、子供の立場で感じ考えることの大切さを教わった。

本の最後で日野原さんが子供たちに託したことがある。それは平和の実現である。戦争を体験した日野原さんは、この世界から戦争を失くせなかったことに無力さを感じ、これからを担う子供たちに「知ることの責任」と「想像することの大切さ」を強く強く訴えている。本を通じて人々が平和な世界を共有することができたら、今、こんな時代だからこそ、日野原さんの願いはきっと叶うに違いないと信じている。

図書館活動報告

4月

・【学生協働】
新入生対象図書館ガイダンス
・企画展示「クラブ・サークル紹介」
・4/11～平日19時までの開館および土曜開館開始
・ゼミ生対象図書館利用案内(～7月)
・Webclassに図書館ガイダンスの更新
・各種データベースのリモートアクセス対応
・リユース本譲渡会

5月

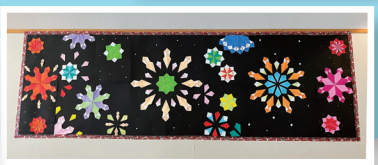
・【学生協働】
図書館サポーター交流会、各グループ活動開始 →→学生体験記p.8-9

6月

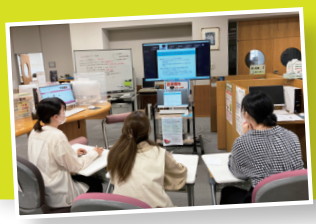
Webブックハンティング実施、
（わいわい選書会開催）
（インターネットの書店サイトを使って学生が選書）→→学生体験記p.13

7月

・掲示「ようこそ図書館へ　七夕を楽しもう」
・電子図書館(LibrariE)ブックハンティング実施
（インターネットの書店サイトを使って学生が選書）
・【学生協働】壁面飾り・モビール
・【学生協働】『夏に読みたい本』展示
・【学生協働】「絵本の読み聞かせ」
（小学校、こども園）
・マナーアップ月間



9月



・【学生協働】大学図書館学生協働交流シンポジウム
（オンライン）に参加
・9/21～ 平日19時までの開館および土曜開館開始
・ゼミ生対象図書館利用案内（～12月）
・【学生協働】「童話しおり」プレゼント
・【学生協働】『秋の本』展示

図書館活動報告

10月

・【学生協働】ハロウィン館内掲示
・掲示「就実図書館Halloween Party！」
・インターンシップ生受入（～11月）
・図書館セミナー「地域医療における薬局の役割
ー経緯と実際の対応ー」→→実施報告p.19

11月

・中学生職場体験受入
・【学生協働】第１回 POP 総選挙募集
『わたしの「推し本」はコレだ！』（10月～1月）
・【学生協働】図書館ゲーム開催準備
・美術部による美術部作品展 in Library

12月

・【学生協働】クリスマス壁面飾り
・掲示「クリスマスに読みたい、聴きたい、観たい作品」
・スペシャル講座「絵本翻訳の世界」（講師：武部好子先生）
・【学生協働】『ほっこりする本』POP 作成・展示
・【学生協働】リアル謎解きゲーム
「見習い司書の夢ー原点を探してー」
・【学生協働】「絵本の読み聞かせ」
（小学校、こども園）

1月

・本の福袋企画
・一般雑誌譲渡会
・掲示「2023 年の抱負」
・書道部による令和５年新春企画　書道部作品展
・【学生協働】第１回 POP 総選挙投票
・【学生協働】読書会ほか 定期的に活動中！
・マナーアップ月間

図書館サポーター活動報告

図書館サポーターとは

図書館を盛り上げることを目的とした団体です。学生の希望により8年前に発足しました。
今年度は8つの自主企画グループが自分たちで企画・活動内容を考え、協力しながら楽しく元気に活動しました。学科・学年を越え、新しいことにチャレンジしています。

POP作成

総合歴史学科　上野　穂香

発足から三年目となるPOP作成班は今年度、初めての試みとして第一回POP総選挙を開催しました。はじめは第一回となるこの企画にどれだけ作品が集まるか不安でしたが、沢山の人がそれぞれの「推し本」のPOPを応募してくださり、実際に投票されている様子を見た時は、とても達成感がありました。集まったPOPはどれも工夫が凝らされていて、個性豊かでした。わたしたち図書館サポーターだけではなく、利用者の皆さんがPOPを作成し投票するという参加型の企画になったことで、いつもよりも図書館や読書を身近に感じられたのではないでしょうか。

総選挙の開催にあたっては、班全体で時間や人数がなかなか揃わない中、図書館の職員の方もインスタグラムでの告知をはじめとして支えてくださり、応募要項や、POPの募集を呼びかけるポスター、投票箱等も班で役割分担と協力をして作成することができました。

今回の第一回POP総選挙をきっかけに、皆さんの図書館の利用回数や、まだ読んだことのない本に触れる機会が増えれば嬉しいです。次回以降は、今年度できなかったPOP作成を行い、本が好きな人もそうでない人も、図書館をもっと楽しく利用し、さらに本に親しんでもらえるような企画を考えていきます。

グッズ作成

表現文化学科　山本　直弘

今年のグッズ作成班は、童話キャラクターのしおりとステンドグラスのしおりを作成しました。絵本の中に出てくる「おむすびころりん」のネズミや、「ないた赤鬼」の赤鬼などの童話のキャラクターをしおりにしたり、黒い画用紙に透明な折り紙を貼り合わせステンドグラスのしおりを作成しました。それぞれがイラストを描き、パソコン作業が得意な人にデータに起こしてもらいました。その後、白い画用紙に印刷していきました。大変だったことは、童話キャラクターのしおりが余る事態になりかけた事です。その課題を解決するために集まって話し合いました。そして、ポスターやポップを作成してより童話キャラクターのしおりを知ってもらうことで解決することが出来ました。

最後になりましたが、忙しいにも関わらず図書館サポーターグッズ作成班に関わってくれた班のメンバー、いつもサポートしてくださり、話し合いの方向を導いてくださった司書の方々にお礼を言いたいです。ありがとうございました。

リレー小説

表現文化学科　小松原　洸太

【リレー小説】企画は2022年の4月下旬ごろからスタートしました。2018年以来の【リレー小説】企画だったため手探りの状態で始まり、図書館サポーターの担当者も当初は2人から始まりました。

参加者を集めるためにはどうすれば良いのか、小説の設定はどの程度まで決めるのかなど様々な事を【リレー小説】図書館サポーター内で何度も話し合いを重ねました。6月上旬頃から、有志の方に描いていただいたポスターを校内に掲示し、実際に参加者の募集を始めました。今回のリレー小説は〈恋愛〉と〈ファンタジー〉の2つのジャンルに分かれ、図書館サポーター内で決めた登場人物の設定と物語を書く上でのルールを踏まえた上で、プロローグを文芸部さんに書いていただき、そのプロローグから参加者の方々に物語の展開を委ねました。

今回の【リレー小説】は図書館サポーターの干渉を最低限にしたため、物語の展開などは当初全く予想できない物でした。この『共翔』が発行される頃には【リレー小説】が完成する予定です。

【リレー小説】の参加者の方々がこの企画を通して、作品創作の楽しさに触れることができ、この【リレー小説】を読んだ方も自分も書いてみたいなど思っていただければと思います。

掲示物作成

表現文化学科　神山　奈弓

掲示物作成班は、主に季節ごとにその季節の特徴のものを作成し、図書館内に掲示するという活動を行っています。そして、掲示物作成班の目的は、季節感を感じられる掲示を作成し、館内を飾って、少しでも図書館に親しみやすさを持ってもらえるようにするということです。それぞれの空き時間を利用して、完成に向けて計画を立て、掲示物を作成しています。

2022年は、夏に「花火」をテーマとした折り紙を折って花火の形にしたものや、切り紙で花火のモザイクアートを作成して1階のエントランスで来館した方に見て頂けるように掲示をし、秋は「ハロウィン」をテーマに画用紙を使って円形のジャックオランタン風の飾りを作って館内の様々な場所で掲示をしました。また、冬には「クリスマス」をテーマとしてハロウィンの時に用いた円形の飾りを工夫して、ツリーの形に配置をしたものやサンタクロースの飾りにしたり、来館した人々に自主的に「冬といえば」というおすすめの歌や映画、本などを記入してもらいそれを貼って完成させるツリーの掲示物の作成をしたりしました。

今回の来館者の方々に協力していただいたツリーの掲示物では多くの方にツリーに貼る紙を記入していただけて、立派なツリーの掲示になって嬉しかったです。

今後も来館される方々に少しでも楽しんで頂けるような掲示ができるように工夫をしていきたいです。

図書館サポーター活動報告

企画展示

総合歴史学科　足立　礼野

企画展示は毎回テーマを決めてそこから連想される本をみなさんに紹介する企画です。紹介のほかにも展示する際のPOPも自分たちでデザインを決めています。1人5冊程度テーマから連想される本を選び、カウンターの隣で展示しています。

今年度は夏,秋,冬にそれぞれ「夏祭り」、「秋」、「ほっこりする本」の3つのテーマで企画しました。花火や秋の空、クリスマス、鍋の本など文庫本だけではなく絵本や写真集などジャンルを限らず様々な本を展示しました。特に2022年最後の企画の「ほっこりする本」ではネコの本や妖怪の本、おせちのレシピ本などサポーターたちが思い思いの本を選んでいました。たまになぜこの本が選ばれたの?という本もあったりします（笑）そういった本が選ばれた理由も考えたりするのも楽しいかもしれません。

どんな感じで展示し紹介したらいいのか悩んだりしますが、自分が紹介した本が借りられるのを見ると、とても嬉しく、達成感がありました。

これからも楽しんで本を見たり、みなさんがまだ出会ったことのない本に出会うきっかけになるような企画をしていきたいです。ぜひ就実大学・就実短期大学図書館に立ち寄ったら企画展示のコーナーを見に来てください!

絵本の読み聞かせ

初等教育学科　秋山　佑喜世

私たち絵本の読み聞かせ班は、就実こども園と就実小学校の2ヶ所で読み聞かせを行っています。今年度は夏と冬に1回ずつ、2~3人でペアを組み、それぞれの場所へ読み聞かせに行ってきました。活動の内容は、最初に自己紹介をし、続けて手遊び歌をした後に、読み聞かせを行うというものでした。

まず手遊び歌では、「こぶたぬきつねこ」や「アルプス一万尺」、「ひげじいさん」などをしました。最初に手遊び歌を行うことにより、子供たちの意識をこちらに集めたり、気分を盛り上げたり、あるいは気持ちを和らげることができます。また私たちにとっても子供たちと手遊び歌をすることは、子供たちの笑顔を引き出したり、自分たちの緊張を解したりする大切な時間です。今回もそれらが無事達成できたことに、ほっとしています。

読み聞かせでは、『おばけのてんぷら』や『パンダ銭湯』、『まどからおくりもの』など、他にもいろいろな本を読みました。この中には英語の絵本や大型絵本もありました。子供たちからはどんな反応が返ってくるのだろうかとソワソワしましたが、「この絵本知ってる!」とか、物語の内容に対する発言をしながら、絵本をじぃーっと見てくれている姿を見て、とても嬉しかったです。

今回の活動を通して、読み聞かせの難しさと面白さを実感させていただきました。また絵本の読み聞かせ班は、子供たちと直に関わることができる場でもあります。興味のある方は、ぜひ参加してみて下さい。

読書会

総合歴史学科　髙橋　美優

私たち読書会班は、月に一度集まってテーマに沿った本の紹介をしています。テーマはその季節に合わせて「海」や「初笑い」としてみたり、メンバーの趣味に合わせて「ファンタジー」にしてみたりとその時々によって好きに決めることができます。

本もテーマに沿っていれば制限がないため小説や写真集、絵本など多種多様です。この会に参加すると毎月のテーマごとにどんな本を選ぼうか悩みます。図書館に行って次回は昔読んだあの本にしようか、それともいい機会だから新しくこれまで読んだことのない本を読んでみようかとついつい書架をウロウロしてしまいます。知らなかった本を知れたり、同じ本が好きな人を見つけられたりと得る物の多い会です。

話す時間には特に制限は無く、本の説明をした後他のメンバーが質問をします。時には雑談に花が咲くこともしばしばです。学年・学科の壁を超えた集まりですが、本が好きな者同士なので初対面でも気まずくなることはあまりありません。ビブリオバトルほどきっちりしたイベントでもないので、気軽にゆるゆると活動中です。今期はスケジュールの都合で班を二つに分けて活動しています。是非来年も多くの人に愛されるイベントであり続けたいと思います。

図書館ゲーム

教育心理学科　松浦　晃子

図書館ゲーム班は、謎解きゲームを通して図書館について知ってもらうことをコンセプトに活動しており、今回の活動で7年目を迎えました。今年度は新型コロナウイルスによる規制が緩和されたためか、昨年度よりも多くの人に楽しんでいただくことが出来ました。

今回は『見習い司書の夢ー原点を探してー』をタイトルに、主人公である見習い司書が不思議な存在のてうちゃんと一緒に自分にとって一番の本を探す、というストーリーでイベントを開催しました。謎は3問作成しましたが、今年度はかなり解きごたえがあるとコメントが多く、そのためか 3人組や4人組のようなグループで挑戦してくださった方が多かったように感じました。

また、新たな取り組みとして映画研究部さんと連携し、ストーリーの冒頭部と結びを動画で作成しました。結果、「動画があることで物語に入り込みやすくなった」「てうちゃんが可愛かった」というような嬉しいコメントをたくさんいただくことが出来ました。

グッズ班が景品用に作成しました。

今年度は動画の導入という新しい取り組みを取り入れたため、それに伴って課題も発生しましたが、これを糧とし来年度は更に多くの方々に楽しんでいただけるような活動をしていきます。皆様の参加をお待ちしております。

声かけてね

学生の皆さん、ぜひ私たちと一緒に、得意なこと、好きなことを活かしながら学生協働をしませんか。図書館サポーターはいつでもメンバーを募集中です!
気になった方はお気軽に図書館カウンターにてお声がけください!

卒業する図書館サポーターからのエール

サポーターとして、主に図書館ゲームの運営を行いました。活動を通して他学科の学生と交流でき、なおかつ自分の新しい能力を見出すことができたと感じています。図書館職員さん、サポーターの皆さんには大変お世話になりました。皆さんの今後のご活躍を心より願っております。

（表現文化学科　岩城　梨菜）

図書館サポーターとして、はじめの一年は読み聞かせと読書会を、それ以降は読書会だけで活動していました。どちらも話すことが大切で、あまり人前で話すことが得意ではなかった私ですが一年生の頃と比べるとだいぶ人前でも話せるようになったと思います。

ほとんどの人は新入生オリエンテーションなど大きな行事でしか関わることはなかったですが全員で協力して活動できて楽しかったです！

今までありがとうございました。これから先の皆さんのご活躍を願っております！

（表現文化学科　政安　采美）

１年生の頃から図書館サポーターに所属し、新入生オリエンテーションや図書館ゲームに参加させていただきました。図書館サポーターの活動を通して職員の方々や多様な学年や学部の方々と接する機会ができ、とても学びある日々を過ごしたと思います。職員の方々や図書館サポーターの仲間のおかげで自身の成長に繋がる経験が沢山出来ました。ありがとうございました。

（総合歴史学科　石田　瑶貴）

私は、企画展示班と掲示物作成班で活動しました。特に楽しかった思い出は、掲示物作成班で、テーマに合わせた飾りを作成・掲示したことです。その中でも、折り紙で作った花火はきれいにできあがり、とても嬉しかったです！

（総合歴史学科　中村　真夏）

私は１年生の頃から参加させていただき、様々なことを体験することができました。特に図書館ゲームを毎年開催できたことはとても嬉しかったです。これからもサポーターの皆さんが楽しく図書館を盛り上げていけることを、応援しております。ありがとうございました。

（総合歴史学科　濵崎　和洋）

卒業する図書館サポーターからのエール

図書館サポーターとなり、絵本の読み聞かせや新入生オリエンテーションに参加させていただきました。

絵本の読み聞かせでは、子どもの「何が始まるんだろう」というわくわくした表情や、熱心に読み聞かせを聞いてくれる姿がとても印象的でした。この経験を、春から勤務することになる保育現場で活かしたいと思います。

最後になりましたが、図書館サポーターに声を掛けて下さった職員の皆様、サポーターの皆さん、本当にありがとうございました。

（初等教育学科　石井　玲奈）

就実小学校と就実こども園で絵本の読み聞かせを行いました。子どもたちに喜んでもらえるように、パワーポイントなど事前準備を何度も繰り返して本番を迎えました。学年や学科関係なく協力して頑張ることができました。

（初等教育学科　石田 実）

私は、新入生ガイダンスや絵本の読み聞かせの活動に参加しました。特に、読み聞かせの活動では、他学科の人と協力しながら何度も練習をし、実際に子どもの前で行った時に楽しそうに聞いてくれたことがとても嬉しくて印象に残っています。

図書館サポーターの皆様、職員の皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。

（初等教育学科　木﨑　優里）

新入生図書館ガイダンスで、人と関わる楽しさや相手にわかりやすく伝える大切さを学ぶことができました。ガイダンスを通して様々な人と関わりをもつことができ、私にとって図書館は心の拠り所となりました。皆さんの拠り所が一つでも増えますように…。

（初等教育学科　森定　華）

活動を通じて仲良くなったサポーターさんたちや図書館職員の方々との出会いは私の1番の思い出です。企画展示や動画撮影など様々な企画は、どれもやってみたかったことを叶えてくれる場でした。本当にありがとうございました！

（薬学科　時長　はるか）

図書館サポーターからの海外だより

イングリッシュベイでクラスメイトと撮った1枚◀

◀ノースバンクーバーで撮った夏の１枚

１年間の留学でカナダのバンクーバーに来ています。英語だけでなくビジネスの勉強や就業経験をしたかったので、大学の留学ではなく自ら留学プランを計画しました。初めは、世界中の国から訪れる人たちが住む街での文化や食生活などの違いに慣れるのに苦労しましたが、温かいホストファミリーや素敵な友達にも恵まれ今では楽しく過ごすことができています。

これを読んでいる人の中には留学を検討している人もいるかもしれません。そんな人にはぜひ大きな一歩を踏み出してほしいと思います。社会人になる前に異国で長期間の生活をすることは人生を歩む上で貴重な経験になると思います。みなさんの夢を応援しています。

（実践英語学科　虫上　健太）

カナダのビクトリアという、岡山県でいう倉敷市のような都会ではないがある程度栄えたところに留学しています。この場所では時間がゆっくり流れていて、人々はお互いに助け合っていると肌を通して感じます。-15℃の寒さも。

ありがちな言葉になりますが、英語だけではなく様々なことを学びました。母国が違う友達との考え方の相違を受け入れる余裕。これを得ることができたら日本で起こる大抵のことは乗り越えられると思います。留学を考えている人にお伝えしたいことは、必ず自分の糧になるような経験ができるので、後先考えずに時には思い切る決断をしてみてください。それがどちらに転ぼうが、自分が思いもしない力、かけがえのない友達を得ることができます。保証します、おそらく。Thank you for taking your time to read about my experience in Canada. Gracias amigo!

（実践英語学科　山本　天晴）

友だちの誕生日会

Whistler での Vacation

Webブックハンティング報告

★Webブックハンティングとは？★

Web の書店サイトで好きな本を選べるイベントです。
2022年度もオンラインでのブックハンティングを行いました!!!
今年も、通常の形の本だけではなく、電子の本も選書しました。選書方法は、いつでも、どこからでも、インターネット環境があればできます。丸善雄松堂書店と紀伊國屋書店の選書サイトを利用して、選書額の範囲なら何冊でも選べます！
選んだ本は図書館の書架に並びます。POP を作成してみんなにオススメしましょう！

ブックハンティング体験記

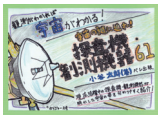
【1回目】実施期間：2022年6月20日～7月4日
参加者数：25名　選書冊数：105冊

【2回目】実施期間：2022年7月1日～7月22日
参加者数：25名　選書冊数：68冊

Q. どんな本を選んだらいいの？

A. こんな本を選んでね！

・図書館に置いてほしい本
（図書館で読みたい本）
・卒論や就活に必要な本
・講義やレポート作成に役立てたい本
・通学中に読める電子書籍　など



今回のブックハンティングも新型コロナウイルスの影響により、Web上で行いました。

自分の興味のあるジャンルの本を検索してみると面白そうな本が多く、どの本にするか非常に迷いました。選書した後の確定もWeb上で行うため最初はわからなかったのですが、図書館職員の方が丁寧に教えて下さり、楽しく本を探すことが出来ました。ブックハンティングは自由に自分の好きな本を選書することができます。楽しいのでぜひブックハンティングをしてみてください。

（総合歴史学科　吉川　大翔）

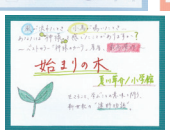
ブックハンティングとは、図書館に自分が読みたい本を置いていただける本好きにとって夢のような企画だと思います。私は昨年、Webブックハンティングに参加させていただきました。

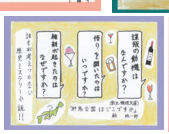
Webと普段のブックハンティングとの大きな違いは、自分が好きな時間に行えるというところです。なので、課題が終わってひと段落したときなどに、息抜きとして楽しく本を探すことができました。逆に困ったことは、探せば探すほど素敵な本を見つけてしまい、どの本を図書館に入れていただこうかと、とても悩んだことです。

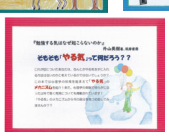
ブックハンティング後、自分が選んだ本を一番に借りることができることも大きな魅力だと感じました。また、このような機会があれば、是非、参加したいです。

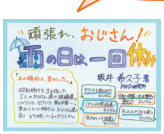
（初等教育学科　土肥 桃子）

POP はブックハンティング参加学生が作成しました









新井素子著『星へ行く船』（出版芸術社）

「星へ行く船」は、ロマンティックSFと称されるシリーズ小説です。物語は、主人公である森村あゆみが19歳にして家出ついでに地球を捨てて、宇宙へ飛び出すところから始まります。

SF小説と聞くと少し身構えてしまう方もいると思いますが、あゆみちゃんの一人称視点でテンポ良く鮮やかに展開していく本作は、SF作品特有の堅苦しさを感じさせません。

時に全宇宙を巻き込む大事件に首を突っ込んだりしながらも、一人前になるため日々奮闘するあゆみちゃん。抱きしめたくなるほど愛おしくて堪らない女の子です。一人の少女の成長物語としては勿論、キャラクター達のもどかしい距離感や心を突く素敵な言葉達に、読後のあなたはどこまでも優しい波に呑まれてゆくはずです。

（表現文化学科　樂）

フランセス・バリー作・絵/たにゆき訳『おおきなおおきなきいろいひまわり』（大日本絵画）

この絵本は、夏にあった保育所実習でなにか夏に関連する絵本を読みたいと思い、図書館で探している際に見つけた絵本です。

内容は、ひまわりが少しずつ咲く過程が描かれた話です。この絵本は仕掛け絵本で、ページをめくるごとに絵本自体がひまわりになるという仕掛け絵本です。

この絵本を読んでいる時、子どもが興味を示していつもより集中して絵本を見てくれて、次のひまわりの制作活動に繋げていくことができました。

同じ仕掛けで他のシリーズの絵本もあったのでぜひ読んでみてください。

（幼児教育学科　みーちゃん）

近藤史恵著『タルト・タタンの夢』（東京創元社）

タルト・タタンは秋の季語。

確かにリンゴは秋の季語であるけれど、タルト・タタンは違うんじゃないだろうか、と首を傾げる「高築智行」が本作の主人公。彼の勤める〈パ・マル〉は、気取らない家庭的なフランス料理が人気の小さなビストロだ。変わり者のシェフ、三舟の料理に魅せられた客たちが持ち込む様々なミステリは、どれも一癖あるものばかり。最悪な味の鷲鳥のカスレ、フェーブの消えたガレット・デ・ロワ。難題のミステリが、シェフ三舟の手によって解き明かされる。

〈パ・マル（「悪くない」）〉。そんな、至極のミステリを極上のフランス料理と共に味わえる本作。この機会にぜひ、一度手に取ってみてはいかがだろうか。

（総合歴史学科　道端のハト）

「あそびと環境０．１．２歳」編集部・リボングラス / 編著『０．１．２歳児手作りおもちゃ６４　身近な素材でラクラク作れる』（Gakken）

私は実習や授業の模擬保育前に、特に、図書館を多く利用します。

この本は、実習で使う手作り玩具を作るために借りた本です。どれも身近な素材で簡単に作ることができ、可愛らしくて温かみのある手作り玩具です。

その中でも私は「動物パペット」を参考にして、ハンカチとフェルト、平ゴム等を使って、担当クラスがハマっていた“おばけ”のパペットを作りました。実習で早速実践すると、子どもたちが大喜びして楽しんでくれたのでとても嬉しかったです。

保育に関する本が充実しているので、これからも利用したいと思います。

（初等教育学科　A.K）

湊かなえ著『白ゆき姫殺人事件』
（集英社）

この作品は湊かなえ著のミステリー小説で、2014年に菜々緒さんや綾野剛さん主演で実写映画化もされている作品です。

話は、とある化粧品会社に勤める女性が殺害され、その事件に興味をもったテレビ番組のディレクターを勤める男が、事件の関係者などに取材をするというもので、取材の内容がメインで物語が進みます。

全体を通して非日常の会話なのに、どこかに日常と切り離せないところがあったり、他のミステリー物と違い、どのようにして起こったのかではなく、何故起こったのかを考えながら読んでいけたりと独自の世界観に沼りながら読み進んでいける面白い作品です。

（経営学科　たまさん）

辺見じゅん著/林民夫脚本
『ラーゲリより愛を込めて』（文春文庫）

1945年８月、日本は敗戦。満州にいた日本人たちはソ連（現・ロシア）軍にロシア語でダモイ（日本語＝帰国）と騙されシベリアの収容所（＝ラーゲリ）に連れられた。

零下40℃の厳冬の地で労働を強いられる中、ダモイを信じ続け、人々に生きる希望の火を灯し続けた一人の男、山本幡男は、日本で待っている妻と家族に会うため決して生きることを諦めなかった。奇跡の実話である。

生きることは死ぬことよりも辛く、覚悟が必要であり、暗闇で明日が見えなくても生きる希望は無くしてはいけない。

誰しも何処かに弱さがあるものだから、ただ今日を懸命に生きて、自分を愛してほしいと思える作品です。

（実践英語学科　H.O.）

pha 著『ひきこもらない』（幻冬舎）

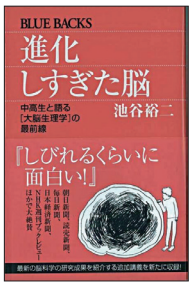
この本では、世間で普通とされていることにうまく嵌ることができない作者が「どこに住んでどんな風に暮らして、この社会の中をどのように動き回れば楽しく生きられるか」を教えてくれます。

各地をふらふらする魅力を知ることができたり、新しい価値観の発見があったりする作品になっています。作者の「普通」という枠に縛られず、自分なりに力を抜いて楽しく生きてみるという考え方が、心を軽くさせてくれます。

将来に対して不安がある人や、自分の気持ちに素直になりたい人にぜひ読んでほしい一冊です。

（生活実践科学科　ちーかま）

池谷裕二著
『進化しすぎた脳：中高生と語る「大脳生理学」の最前線』
（講談社）



「心とは何か、心はどこから生まれるのか」

この本は脳科学者が中高生向けの講義を書籍化したものであり、著者と生徒との繰り広げられる対話形式なので脳科学の知識を持たない私でも最後まで面白く読むことができた。

大脳生理学の専門的な内容は想像以上に深く、それをわかりやすく解説してあるので知的好奇心がくすぐられる。身近な問いから脳の働きの意識、心、言葉、記憶など最新の研究成果話へと移行していき「心とは何だろう」という哲学的な内容も含まれている。

本書を読むと、脳は漠然として曖昧であることが特徴であり、人間は自由意志の下で日々判断していると思いきや実はそうではなく条件反射的に行なっている部分が大きいなど、興味が惹かれるものが多かった。脳科学のみならず自然科学全体について興味がある方は手に取ってほしい。

（薬学科　森のくま）

図書館HPは
https://www.shujitsu.ac.jp/toshokan/です!

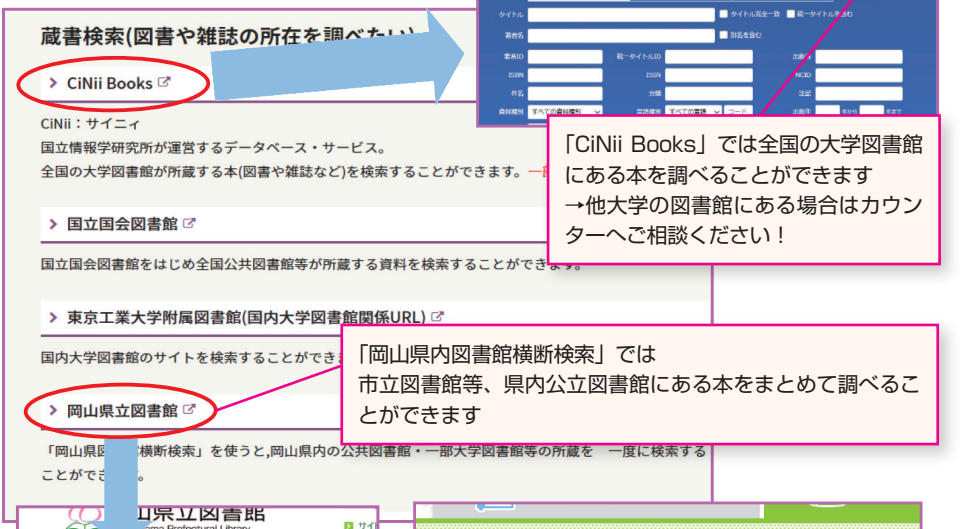
「情報を調べる」を活用しよう!

卒論やレポートに必要な本や論文を探す・言葉を調べる時に便利!
本文が読めるものもあるよ!

❸学術情報ポータルはここから
（データベース・リンク集）

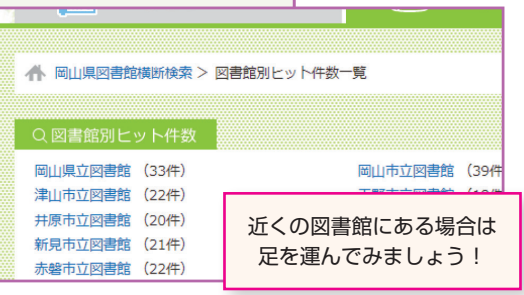
就実にない本を借りたい!

そんな時は、他の大学や公共図書館にあるか見てみましょう。



「CiNii Books」では全国の大学図書館にある本を調べることができます
→他大学の図書館にある場合はカウンターへご相談ください!

「岡山県内図書館横断検索」では
市立図書館等、県内公立図書館にある本をまとめて調べることができます



近くの図書館にある場合は
足を運んでみましょう!

レポートや卒論で使う論文を探したい！

CiNii Research

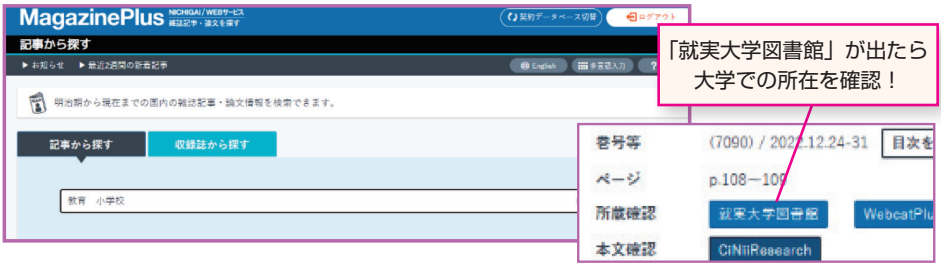
日本の学術論文を探すことができます

キーワードを入れて「論文」タブから検索

「機関リポジトリ」から本文が読めるものも！

マガジンプラス

学術誌から一般誌までまとめて検索



「就実大学図書館」が出たら大学での所在を確認！

Gale Academic OneFile

外国の論文検索

本文が読めるものだけ調べることもできます

授業で出てきた言葉の意味を調べたい！

ジャパンナレッジ Lib

さまざまなジャンルの辞書・事典類からキーワードを一括で検索

検索対象の辞典類を絞り込むときはここから

最近のニュースを調べたい！

朝日新聞クロスサーチ

朝日新聞や雑誌 AERA・週刊朝日の記事を検索

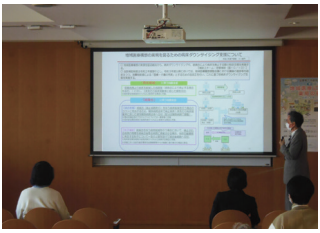
日経バリューサーチ

日経が発行する新聞記事が検索できます

毎索（毎日新聞）Sandex（山陽新聞）もご利用ください！

WebClass
「図書館ガイダンス」コース

第11回 図書館セミナー実施報告



10月29日(土)13時から、約30名の参加者を迎えて、第11回図書館セミナーを実施しました。

「地域医療における薬局の役割―経緯と実際の対応―」と題し、就実大学薬学部附属薬局 前薬局長の柴田隆司先生にご講演いただきました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で２年ぶりとなりましたが、対面形式で無事に開催することができました。

基調講演では、日本の地域医療体制の現状と薬局が担う役割について、お話しいただきました。しゅうじつ薬局での実際の取り組みの例を交えながらお話しいただき、薬局が身近な存在であること、チーム医療には薬剤師が欠かせない存在であることを改めて感じる機会となりました。薬剤師の業務の幅は広がり、薬局は医療や介護の相談窓口の役割も担っていることを知りました。

柴田先生の講演後は、ワークショップ「図書館サポーターとフレイル予防」を行いました。チェックリストの質問に答えて簡単にできるフレイル度チェックや、椅子に座ったままできるストレッチ中心の運動を参加者の皆さんと一緒に行いました。健康寿命を伸ばすために、日常生活で意識して気を付けたいポイントについて、学生自身も学ぶきっかけとなりました。

次回も地域の皆さんの期待に応えられるよう、図書館サポーターとともに、より充実させていきたいと思います。どうぞご参加ください。

図書館アンケート結果報告

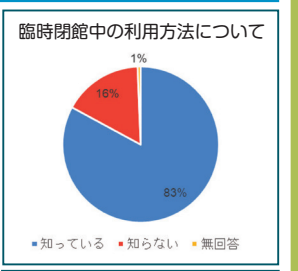
2022年2月から3月末にかけて、臨時閉館中のサービスについて、利用者アンケートを実施いたしました。アンケートの目的は、臨時閉館中においても、所定の手続きを行えば、利用できることについて、そのサービス内容がどれだけ伝わっているか、また、臨時閉館中にどんなサービスを望んでいるのかを、知ることにありました。

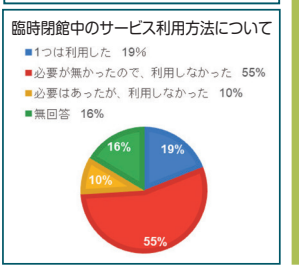
アンケートの結果、図書館に興味を持っている方々には、臨時閉館中のサービスについてもしっかり伝わっていました。しかしながら、いざそのサービスを利用しようとすると、ハードルの高い部分もあったようです。集計結果の一部を紹介します。詳細な内容は、図書館内で掲示しています。

臨時閉館中でもできたこと

・事前予約による図書館利用
・図書の貸出や返却（郵送も可）
・論文のコピー（郵送も可）
・他大学からの文献（論文や図書）の取り寄せ
・学外から利用できるデータベースや電子書籍の利用
・図書館の資料や利用方法の相談

など





サービスの内容は知っていても、利用に繋がらなかった理由

・先生の許可を得るのが面倒である、抵抗がある
・送料を負担しないといけない
・近隣の公共図書館を利用した

臨時閉館中にあったら良いと思ったサービス

- 本や雑誌の紹介（新着図書や読んで欲しい本の紹介をメール送信やWebclass掲載する）
- オンラインを利用したレファレンス
- 行動制限中に開館している公共図書館の情報配信
- 自習室としての開放

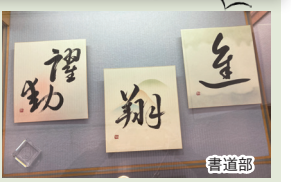
2023年5月から、新型コロナウィルス感染症による行動制限が緩やかになるようです。今後は、臨時閉館することも少なくなるでしょう。
いつも身近に感じられる図書館を目指して、学生さんと共に、サービスを考えていきたいと思います。皆さんからのご意見をお待ちしております。

図書館からのお知らせを発信しているところ

★図書館HP
★WebClassの図書館ガイダンス
★図書館からのメール
★大学HPインスタグラム

図書館とコラボしませんか

今年も、図書館のスペースを利用して、作品の展示やイベントを開催しました。十分な課外活動ができない時こそ、活動内容を図書館で発表してみませんか。
例えば、絵や写真を飾ったり、情報を発信したり、演奏会や動画撮影、利用者参加型のゲームを行ったり・・・と可能性はさまざまです。アイデアのある方は、お気軽に図書館職員へお声かけください。



共翔　第30号
令和5年2月20日発行

編集・発行
就実大学・就実短期大学図書館
〒703-8258　岡山市中区西川原1-5-22　TEL(086)271-8134　FAX(086)271-8275
ホームページ　https://www.shujitsu.ac.jp/toshokan/

※館報の題字は押谷善一郎名誉教授の書によるものです。